

ルツ記の学びの3回目。この箇所はルツ記全体の中の重要箇所の一つです。

1. ナオミのルツ説得 (15～16節a)

①ルツを説得 (15節) ナオミはなおおすがりつくルツ (14節) に対して、言いました。「ご覧なさい。あなたの弟嫁は自分の民とその神のところへ帰っていきました。」ここを見ると、ルツがナオミの長男マフロンに嫁ぎ、オルパが次男キルヨンに嫁いだことがわかります。(参照4:10)。そのオルパはナオミの説得でモアブに帰っていきました。この言葉を見ると、ナオミもそこに帰れば、その地の神々の信仰にもどってしまうということが予測できたのでしょうか。それでも若い彼らには再婚して人生をやり直してもらいたかったのでしょうか。そこで、ルツにもはっきりと「あなたも弟嫁にならなくて帰らなさい。」と勧めたのです。

②ルツの返答 (16節a) 「あなたを捨て、あなたから別れて帰るように、私をしむけないでください。」ここでナオミの勧めに従うことは、ナオミを捨てることであり、それはとりもなおさず自分が夫とともに歩んできた信仰生活も捨てることであると、ルツは認識していたのでしょうか。だから、ナオミと別れて自分の生まれた国に戻るようにはしむけないでくださいと、ルツははっきりと伝えたのです。

2. ルツの決意 (16b～17節)

①あなたの行く所に (16節b) ルツは夫との結婚生活を通して、夫やナオミを通して創造主である神を教えられていました。そして、その信仰はルツに少なからず影響を与え、その信仰生活に喜びを見出していたのだと想像できます。だから、ナオミの「帰らなさい」という説得に対しても、「いや、私はあなたの行く所に行きます。あなたの住む所に私も住みます。」と明言したのです。そのように促されたのでしょうか。

②あなたの神は私の神 (16節b) そしてついに、ルツは信仰告白をするのです。「あなたの民は私の民。あなたの神は私の神です。」これは異教社会にあったルツの明確な決断でした。自分が生まれ育った民、そこで培われた土着の信仰。そこから袂を分かち、主なる神の信仰に立つという信仰表明でありました。この告白は彼女がこれからの人生を歩むためにも、重要なものであったと考えられます。

③自分の葬りについても (17節) ルツはもう決めていたのです。おそらく結婚して夫と終生ともに歩むということ。そして、葬られる所も夫と一緒にであるということ。それは、夫に先立たれた後も同じでした。それに義母ナオミからも、信仰を教えられてきました。そして、その信仰は確かなものとなっていたのです。自分の実の両親のことやモアブの地のことを忘れてはいません。しかし、どちらを取るかといえば、唯一の真の神を知ったのですからその方に従い、ナオミについていくことにしたのです。もちろん、自分の葬られる地も夫の出身地であり、ナオミの帰ろうとする地であることを決めたのです。それも、そうしなければ「主が幾重にも罰してくださるように」というほどの決意でした。(参照Iサムエル3:17,14:44)

3. ナオミも受け入れ (18節)

①ルツの決心を受け入れる ナオミは懸命に説得しました。これからのルツの長い人生を思ったのです。しかし、ナオミが伝えてきた信仰が、ルツのうちで非常に明確に生きているのが、わかったのです。いわば、筋金入りの信仰が宿されていることを見てとったのです。これから後の人生にどんなことがあったとしても、このルツは信仰をもってやっていくであろうと踏んだのでしょうか。

何が起るかはわからないけれど、ここまで堅い決心をしているのなら、ルツとベツレヘムにもどってやっていこうと、ナオミも受け入れることができたのです。

《結論》 人生に岐路というのがあります。分かれ道に立たせられる時というのがあります。黒か白かをはっきりと決めなければならない時があります。職業選択とか結婚というのはそのような時でしょう。また引越しか家などの購入などもそうですね。大きな決断をしなければなりません。イエス・キリストを信じるかどうかというのもその中でも重要な決断の時でしょうね。

そのような時にあなたはどのような判断をしてきましたか。私の学生時代、将来どのように歩んで言ったらよいのだろうか模索していました。祈りながら、聖書を読み進めました。エレミヤ書6章16節にこうありました。「あなたがたは分かれ道に立って、よく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ。」(口語訳)。また箴言3章「すべての道で主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(口語訳)。このような御言葉に出会って、私はいずれの仕事に就くにしても、主を第一にしていこうと決断をさせていただきました。そして、大切なのはいにしえの道につく方向をしっかりと見据えていくことだと考えました。この時はまだ牧師になるということは決めていなかったのですが、どんな職業に就いても、イエス・キリストを伝えていこうと決心をしました。

さあ今、私たちは何らかの決断を求められています。具体的な道を決めるのではなくても、主を信じるとか、主を第一にするというのも決断です。「今は恵みの時、今は救いの日です。」(IIコリント6:2)。ルツにならなくて、主イエスへの信仰の決断をしていくことは、あなたの人生を祝福の道へと進めることになるでしょう。